

主催：小須戸コミュニティ協議会



記念樹植樹祭

## 「秋葉区民」としてのアイデンティティを模索する

美術家の深澤孝史氏を招聘し、町屋ギャラリー薩摩屋を地域拠点として、区全域を対象にした「水と油の芸術祭2018」を開催。「秋葉区民が仲良くする方法を秋葉区民と考える」をテーマに、区民へのインタビューから着想を得て制作された7つの作品展示と3つのイベントを開催した。水と油の芸術祭という名称は、水と土の芸術祭にかけられているが、信濃川の舟運で栄えた「小須戸(水)」と、日本屈指の油田と鉄道の街として栄えた「新津(油)」とを指し示している。全く違う性格で、生活圏も異なる二つの地域が、2005年に新潟市と合併し、2007年からは政令指定都市となり秋葉区として一つの区となった。合併から13年、区制施行から11年が経過した現在、異なる地域特性を「秋葉区」という単位で総括した地域情報の発信が求められている。水と油の芸術祭2018では「水と油」をキーワードに秋葉区に住む人々の「秋葉区民」とし

でのアイデンティティを模索する取り組みを行った。旧新津市にも旧小須戸町にも属さない客観的な作家が地域に入ること、インタビュー映像「秋葉区についての区民の思い」や区民としての個人的なエピソードを収集した「秋葉区民すごろく」等を通して区の現状を可視化した。同時に「自分の町のいいところを誰かに紹介する手紙を書く」のように人と人が繋がるような仕掛けも織り交ぜ「区」という漠然とした区分けを一人一人の「区民」単位に落とし込む試みであった。合併後の行政的な区分けをどのように住民の生活実態と結び付けていくのか。その点に対して一つのコミュニティ協議会で取り組んだ。地域に根差した組織が「秋葉区」という枠組みをいかに自分事として捉え、その枠組みをどのように使いどのように動くのかを考えることは、区内の組織と住民の役割であると改めて認識する機会となった。

- 9月1日(土)～10月8日(月・祝)の土日祝 作品展示 (町屋ギャラリー薩摩屋、うららこすど)
- 9月30日(日) 境界の記念樹植樹式 (梅ノ木揚水機場公園)
- 9月30日(日) 秋葉区民会議・区民の交流会 (町屋ギャラリー薩摩屋)